

「走番外地」の歌詞の一一番二行目が
次のように書いてあります。
「ひけひけひけ」と書かれてます。

西暮れにはおちがい
に。
キスが苦味のこと
ではなく、酒の醸造
であることを、

スケルの面々と呼ん
にしするのみんな
智つくるが
ほかに立派出のこ
とミヤサハれと言つ
たりする。ヤサは家
の蔵兒。そしてあ
につ口へるが

また、たゞこういふことは言えるものではなにですが、少な
くとも三台に比べる
に、そういう方に見じ
かして受者がもてま
す。ただ要深問題と
して考究者=おじさんたちの老練が問題と
です。体面にうけい
れられなかつた者た

ちの悲劇です。アワ
トサイターたちのも
つてりる一種のやさ
しさがつたわっこく
る金ヶ崎。その世界
をもふと住みよくし
こいかなくては。万
国の労務者よ、団結
せよ！ ウツヘヘ：

とにかくどうせやる
やはり酒器で、口く
言え世間通じやない
其處にゆう。され
て、アレ
アレたなど
と。だからキスアラ
てと言えば、飲んで
泥酔したこというよう
なこと。またアル
中からうにこつも飲ん

夏の朝でした。くさ
かつたです。きたな
かふたです。おじさ
んたうがまだねてい
ました。私もねむた
か、たのですか、な
にしろその日のうち
に浜松に帰らせられ
はならなかつたので
にいで歩きまわつた
のです。安いです
安い個段の古物屋さ
ん。ひつくりして唇
がぬけそうになつたの
です。そんなわけで

市価七万二千円のが
三万六千円。性良バ
リケン、パンサイの
気分であります。した。
そうにつに冠刀も
ありますが、鎧ワ請
のいいところ口・た
むろしてこるなどさ
んたちの人のよたで
あります。新聞に
載る大阪の三・四事件
はたいてい西成区・
しかしさす・私がち
よくちゅくいつてみ
るかぎり、さんせこ
とは運びもつきませ

ヒ東京に少し近いのですか、東京の山台は
ヒ比べても、山台は
お、かないです。笠
ケ角は大内という土
地柄が影響してるん
でしようが、山谷の
ような背せじがこあ
るようおそろしさ
す。黒岩聖吾さんの
小説のようにもし
ろ人間の情念という
ものが強く感じられ
もするのです。私な
んか笠ヶ角に住んで
るんですけど、

讀書と著者
（しゃ）
（の）
喜
（こえ）
其之壱

金をためてこは金ケ崎
がふいが始まつたん
です。そこでカメラ

んです。浜松はうち
うと東京と大阪の中
間、どちらかといふ

「こいにものと有る。重が大きな荷物を積んでヒゲろを巻き大ハ
フヨリ西の主戸ヒのアライエがその人迄くるヒ「押させて
生え書きアンコになリての私等新人をくんな」レと頑ん
りで重を押し上げていで重を押してい
よく匂をみてくわヒのでウドヒで研し
ものでウドヒで研してアヤ鉄板代として
くぼくかの金を貰つて余、たびで餘代にして
て西と云う事だ。コが一杯のみやしみじみヒ詰つてくわヒ、
「うでこそアンコのアンコの走りやつ
のまえミキ人を遣えヒと云う事で有らう
れどもナ十六才の頭が裏面にはり二筋

アーバン」が生まれるか？　モモの明るくせらないものにしてしまった。しかし私は私でけた
デヤがヒル化してミラウカ？　セヤの持
ニサイクルで踏み出をまく、「どんよへし
車ひにくるのを見てにのみやのオヤジが
いるヒ自己がなくて」「おいやせきつ」の如く
かとりのこされじゆじゆしてならぬい。
アン「の秋がえり「ひんじる」西毛が少し
せれとも「無理人」も改つていなこのに
信で飯が食えるかよ
あとでとかきかる

あわび　コトに紹介したもの以外
に、全員自分が西成分会の高原公平さんの投稿
をほじくるのが別の機会に乞う承。

おわ
び

巴前後で結構販えた
良き時代であつた。それも今的新う音の
が一区の下附近が多
く次に安定期附近で
有る。

当時はアンコの数
も少くほとんど観見
知りが多く人情を裏
切る「フティ」のヤ力
ラ」は中西から相手
にも自然とし支える
にもされなくなりせ事
ので、中間区の仁義
もそれなりに固かつ
アンコに木一當時と
同じ規模の運動なん
こととも在せる程の
連帶性せし。連帶

比例してハイカラに
なり音痴にネクタイ
のアンコも出現する
事となつた。以前は
雨の日に傘をさして
歩くと「なん已あの
やう、アンコのく
せにかさなんかさし
やがつこしなどと
陰口云たたかれたり
したものである。
当時は新ラ宮歌な
ど勿論甘くて遅れ歌
が大令役になつて出
来てからもテク／＼
ヒ天王寺の黒門四歩
りて仕事にいつてモ
ので有る・本地のオ
ーレナイで一日千ニ
百円程度だつた頃で
有らう。
「ヤモ個室などま
已音痴されず広い部
屋に「カイコダブ」
宣教しくすらりヒ枕
区並びて頭フニもの
己。だから余計に親
近感も連帶感も強か
つたのも知れぬい。
三十五、六回田羽根り
の良わ、た山田組も
オ一次の暴動で親分
の「まやん」もすつ
かり諸う目になりそ
の歿死モ三、四年前
には一晩に四回か苦
き見たが今日まるそ